

事例

11

## 草小積みを作ろう！

実施校：宮地小学校 5 年生、古城小学校 4 年生（阿蘇市）

※H24 年度ショートスクール「秋編」より

### ■実施概要

秋たけなわの 10 月、宮地小学校 5 年生と古城小学校 4 年生、計 98 名が、国立阿蘇青少年交流の家が主催する「阿蘇の草原キッズになろう～秋編～」に参加し、昔ながらの草小積みづくりを体験しました。

草原の採草作業は機械採草が主流になり、草小積みを見かけることが少なくなりましたが、草小積みづくりには、草を利用するための知恵やワザが詰まっています。草小積みづくりの体験を通して先人が培ってきた地域の文化に触れることで、草原への関心も高まりました。

### ■学習のねらい

- ・身近にある草原と地域の暮らしとのつながりを知る。
- ・草を利用するための知恵やワザを学び、草原に興味を持つ。
- ・草の利用とともに育まれた文化に触れ、身近にある草原への関心を高める。

<実施日> 平成 24 年 10 月 11 日(木)

<実施時間> 14:30～17:00 (3コマ)

<参加者> 宮地小学校 5 年生(82 名)  
古城小学校 4 年生 (16 名)

<実施場所>

国立阿蘇青少年交流の家周辺の草原  
<講師等> 町古閑牧野組合 市原啓吉組合長、草原環境学習小委員会メンバー、交流の家ボランティア

<準備するもの>

(子どもたち) 軍手、マスク、帽子、動きやすい服装と靴

(学校) 救急箱

(主催者) 事前の草刈り、稲手(草を束ねるのに使用)、鎌、ロープ(最後に草小積みを固定)

<主催、コーディネーター>

国立阿蘇青少年交流の家

### ■学習の流れ

教室内学習—45 分 (1 コマ)

#### 草原について学ぼう(事前学習)

講師：環境省阿蘇自然環境事務所／木部直美

※学校毎に実施

- ・宮地小学校：平成 24 年 10 月 5 日 (金)
- ・古城小学校：平成 24 年 10 月 10 日 (水)

野外体験学習—150 分 (3 コマ)

#### 草小積みづくり

平成 24 年 10 月 11 日 (木)

草原の利用とともに育まれた文化を学ぶ

講師：町古閑牧野組合／市原啓吉組合長

14:30 草原に集合

・活動内容と注意事項の説明(市原組合長)

14:20 草小積みづくり(班毎に活動)

・ススキの束ね方を学ぶ

・刈り取ってあったススキを束ねて運び、積み上げて草小積みにする

16:30 質問、子どもたちからの感想発表

17:00 活動終了

教室内学習—45 分 (1 コマ)

#### 学んだことをふいかえろう(事後学習)

※学校毎に、体験で学んだことや思い出などを絵や文に表現する作業を実施。

## ■実施の様子

### ◇草を束ねる

- ・町古閑牧野の市原組合長やスタッフから、稲手を使って草を束ねる方法を伝授され、子どもたちも挑戦。繰り返すたびに徐々に上手に括れるようになりました。



### ◇草の束を運ぶ

- ・束ねた草を小積む場所まで運ぶ作業を、斜面を上り下りして何回も繰り返しました。
- ・2つの班が草小積みを作るのを、残りの2つの班も協力して実施しました。



### ◇1班に1基ずつ立派な草小積みが完成

- ・宮地小学校で3つ、古城小学校で1つ、計4つの草小積みができました。
- ・出来上がった草小積みのまわりもきれいにして作業終了。



### ◇作業体験のふりかえり

- ・作業を終えての感想を発表。体験で気がついたことや疑問について市原組合長に質問し、草原への関心が高まりました。



## ■成果など

- ・稲手を使って草を束ねる作業は、繰り返すことによって少しずつ慣れていった。また、何度も草の束を運びながら友達と協力して草小積みを作り上げることができた。
- ・最後は草小積みの廻りに落ちているススキを拾い集めるなど後片づけ作業も行うことによって、達成感と充実感を味わうことができた。
- ・牧野組合の方から草原の営みの話を聞いたり、草の束ね方などのワザを伝授してもらい、地域で引き継がれてきた草原の文化にふれることができた。

### \*留意点\*

- ・草小積みづくりは、天候に左右される作業です。事前の草刈りから草小積みづくりの当日まで数日間の天気が続くことが必要です。日程を動かすことができない場合は、雨天の場合の代替プログラムを用意しておく必要があります。